

## 環境負荷物質削減の取り組み

## ● 基本的な考え方

工場からの流出、放出を発端とする水質汚濁、大気汚染や土壌汚染などは、周辺の地域社会にとって脅威になります。ミネベアグループでは、地域との共存が事業活動において不可欠であるとの考えから、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。

## ● 2014年度の取り組み結果

ミネベアグループでは、各国、各地域の環境法令を遵守するために、法令基準を上回る自主基準を設け、日々の監視を行っています。当社グループのすべての工場は、漏えいや異臭、騒音、振動など周辺地域に迷惑をかけないよう、日常の監視や環境パトロールを一層強化しました。

## ● 事業所における取り組み

## 工場排水の浄化

ミネベアグループでは、排水を河川に放流する際、工場保有の排水処理設備で使用済みの排水を基準値内まで浄化しています。また、各国および所在地域の法令に従って、排水中のpH<sup>\*1</sup>(ピーエッチ)、COD<sup>\*2</sup>(化学的酸素要求量)、BOD<sup>\*3</sup>(生物化学的酸素要求量)、SS<sup>\*4</sup>(懸濁物質)、ノルマルヘキサン抽出物質<sup>\*5</sup>(油分)などを定期的に測定し、自主的に工場排水の監視を行っています。

※1 pH(ピーエッチ):酸性かアルカリ性を示す尺度。pH7が中性。7より小さいほど酸性が強く、7より大きいほどアルカリ性が強い。

※2 COD(化学的酸素要求量):水中の有機物(汚れ)を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量。BOD測定と比べ短時間に測定できるが、信頼性は劣る。CODは一般的に海、湖沼への排水管理に用いられる。

※3 BOD(生物化学的酸素要求量):水中の有機物(汚れ)を微生物が分解するときに必要な酸素量。BODが大きいほど水質は悪い。測定に数日を要する。BODは一般的に河川への排水監視に用いられる。

※4 SS(懸濁物質):水中に浮遊している物質の量。数値が大きいほど水質汚濁が著しい。

※5 ノルマルヘキサン抽出物質:水に含まれる揮発しにくい油や洗剤などを、ノルマルヘキサンという薬品で抽出した物質。当報告書では鉱油量を表す。

## 藤沢工場における油流出事故(日本)

2014年5月、藤沢工場の排水溝から油を含んだ排水が河川に流出しました。直ちに関係行政の指導の下に拡散防止に取り組み、河川への流出を制御するとともに、河面に流出した油膜はオイルフェンスならびに吸着マットで回収しました。今回の事故により海への油の流出がなかったことと、回収した油を分析し、人体や生態系に有害な物質は含まれていないことを確認しています。

流出の原因は設備の経年劣化であることを特定し、藤沢市の指導の下、再発防止の対応を実施しています。また、そのほかの設備も点検し、同様の劣化がないことも確認しています。

今後このような事故を発生させないよう、再発防止に努めてまいります。

## 廃棄物処理場の視察(日本、タイ、中国ほか)

各工場、事業所から排出される廃棄物には、それぞれの工場、事業所内で再使用、再利用が難しいものがあります。こうした廃棄物は廃棄物処理業者に委託し、処分しています。

ミネベアグループでは、信頼できる処理業者を選定し、処分を委託するとともに、定期的に処分場へ赴き、その処理、管理状態などの視察もしています。廃棄物の処理工程において、土壌、水質、大気などへの環境汚染を引き起こさないよう、今後も処理業者と協力し、取り組んでいきます。

2014年8月には、グループ環境対策委員会の委員長、副委員長も同行し、タイの汚泥、廃液処理会社(GENCO社)の処理場を視察し、処理が適切に行われていることや周辺への公害問題などがないことを確認しました。



2014年8月、タイGENCO社の汚泥、廃液処理場を視察

## ● 今後の目標・課題

ミネベアグループは、引き続き国内外の環境法令を遵守した事業活動を行うとともに、過去に発生させた環境汚染について、浄化作業を進めていきます。